

大阪府立花の文化園

所在地：〒586-0036 大阪府河内長野市高向 2292-1

TEL：0721-63-8739

URL：<http://www.osaka-midori.jp/fululu>

開園時間：10:00-17:00（入園は16:00まで）、12-1月
は10:00-16:00（入園は15:00まで）

休園日：毎週月曜日（ただし休日の場合は翌日）、4-5
月は無休、年末年始（12/28-1/4）

植物園の概要：整形沈床式庭園で咲き誇るバラや、日
本有数の株数を誇るクリスマスローズ、一年中花咲く
広さ約2,000㎡の大温室など見どころがいっぱいです。

幼稚園や小中学校へ出張し植物を育てる楽しさを教

える「学校ガーデニング」など地域に密着した園外活動も積極的に行っています。

植物保全活動：希少になった植物の展示や生息域外保全、啓発活動を行ったり、自生地調査や他団体と協働で自生地復元
作業などを行っています。展示エリア「ふるさとの花園」は、大阪で希少になった植物を中心に植栽展示、来園者の多様
性保全の意識向上と生息域外保全を兼ねています。



紀伊半島を含む周辺植物の保全と啓蒙普及活動

大阪府河内長野市にある花の文化園では、主に
大阪と紀伊半島の植物を中心に自生地調査や収
集、栽培、保全を行い、絶滅危惧植物の展示など
啓発活動や府民への知識の普及を進めています。

■大阪と紀伊半島に自生する植物の保全

紀伊半島は比較的温暖で降水量が多く複雑な
地形なため、極めて多様な植物が自生し、固有種
や隔離分布するもの、この地域を分布の北限、南
限とするものなど貴重な植物が多く見られます。

花の文化園では地の利を活かし、大阪と紀伊半
島に自生する植物の自生状況調査や種子採集等
を行い、その生育特性を調べたり生息域外保全を
行っています。

代表例として、大阪や奈良に稀産するヒメユリ
の保全を、大阪みどりのトラスト協会や奈良県と
協働で行っています。全国的にも個体数が少ない
ヒメユリは、自生地である草地の遷移や自生地そ

のものの消失、また花が可憐なため盗掘に遭いや
すく紀伊半島では個体数は数えるほどしか残っ
ておらず、危機的な状況に陥っています。

花の文化園では、わずかに残った自生地を調査
し、草刈など環境改善の指導や種子による増殖を
行い、かつての自生地復元を目指した保全活動
を進めています。



ポツリと咲いたヒメユリ。いずれは自生地一面に咲かせたい。

■絶滅が危惧されている植物の展示

大阪はその大半が都市部であり、野生植物が生息できる場所が限られているため他の地域では普通に見られるものであっても希少になっているものが数多くあり、外来種の侵入も多い地域です。このように大阪の自然は多様性に乏しく、比較的自然が残っているわずかな地域も多様性が失われつつあります。

花の文化園ではこれらの現状を府民に周知するために、簡単に見ることができなくなった野生植物を中心に展示しながら生息域外保全する場所として「ふるさとの^{はなえん}花園」というエリアを設けています。エリア内の杉林の日陰地にはクリンソウやユキワリイチゲなど森林内を好む植物を、日当たりよい場所にはコウボウムギやハマボウフウなどの海浜植物や草地を好むノコギリソウやマツムシソウなどを栽培しています。観賞には向かない植物も多いため華やかさに欠けますが、生息域外保全と府民の保全意識の向上を図るためにも重要なエリアと位置付けています。

さらに園内には里山の自然を活かした 500m ほどの遊歩道があり、沿道には大阪に自生する樹木の植栽を行い、ササユリ、ヤマユリ、カタクリなどは自生そのままに展示しています。野ウサギや野鳥、カブトムシなども生息し多様な生物が見られる里山として大切に管理しています。



イズミカンアオイ。大阪と和歌山の境付近にのみ自生する。

また、絶滅危惧種には一般には馴染みがない植物が多いことから、環境省と大阪府のレッドデー

タブックに記載されている種の展示用種名ラベルに「危惧種」であることを明記し来園者への周知を図っています。

■府民との協働

花の文化園は、園内の管理やガイド・イベントなどの運営、さらには地域に密着した園外活動などを「NPO 法人フルル花と福祉の地域応援ネット」と協働で行っています。「NPO 法人フルル花と福祉の地域応援ネット」は府民を中心としたボランティア団体で、会員は平成 24 年度には 300 名に迫るほどになっており多才なメンバーで構成されています。

会員達の多様性保全への意識も高いことから、花の文化園が植物多様性保全拠点園になったのに合わせて平成 23 年度に「植物多様性保全グループ」を設立しました。グループの主な活動は、「ふるさとの花園」や園保有の絶滅危惧種などの管理で、除草や播種、植え替えなどを行い、月に一度は勉強会も行っています。これらの活動は府民の手による生息域外保全であり、府民の保全意識の向上や栽培技術、知識の普及にもなり、より強固な保全につながることから今後も重要な業務と位置づけ継続していきます。



勉強会の様子

(本田 高史、2013 年 1 月)